

出題分析		
試験時間 80分	配点 100点	大問数 4題
分量 (昨年比較) [減少 同程度 増加]	難易度変化 (昨年比較) [易化 同程度 難化]	
<p>【概評】</p> <p>例年通り大問4つで構成され、設問数も昨年と変わらなかった。出題形式にも変化はなく、空欄補充と一問一答の語句記述問題のみであった。昨年と同じく中国史に関する大問が2つあったが、今年は非常に書きづらい漢字用語も出題された。古代史からの出題が少なく、昨年に比べて文化史に関する設問がやや増加した。今年は中国史の大問が解きやすかったため、全体的な難易度は昨年よりやや易化したといえる。</p>		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	中国史 (前近代中心)	B: 宋代には、広州のほか泉州や明州、杭州などにも市舶司が設置された。このうち杭州と同じく現在の浙江省に位置するのは明州 (明代以降は寧波と呼ばれた) である。広州と泉州は、それぞれ現在の広東省、福建省に位置する。E・H: 「阿倍仲麻呂」や「戊戌」は、正確な漢字表記で苦戦したかもしれないが、立命館大を志望する受験生であれば確実に得点したい。[2]: 『易経』『書経』『詩経』『春秋』『礼記』の5つを五経と呼ぶ。『春秋』は春秋時代の魯の年代記であり、成立に関与したとされる孔子が魯の出身であることも覚えておきたい。	標準
II	中国史 (近現代中心)	A: 難問。「纏」の漢字を正確に書けなかった受験生が多いだろう。B: 煬帝と混同しないように注意したい。C: 空欄の前に「現在の」とあるため「南京」が正答。「天京」と書かないように注意したい。H: 作品名までは覚えていなかった受験生がいただろう。文学作品に関する出題は一昨年も多数みられたため、復習を徹底しておきたい。I: 「慰」を正確に書けたか否かで差がついただろう。	やや難

III	前近代インド史	B : チョーラ朝は 4 世紀に一度滅び, 9 世紀に再興された。ドラヴィダ系タミル人の王朝であることも覚えておきたい。H : シヴァージーがわからなかった受験生もいただろうが, リード文中の「インド西部」からマラーター王国であると判断できる。I・J : ポルトガルは 1510 年にインド西岸のゴアに達し, 翌年, マレー半島西南部のマラッカを占領した。K・L : ナーナクはバクティ信仰とイスラーム神秘主義を融合し, シク教を創始した。	標準
IV	近現代フランス史	A : テュイルリー宮殿の名称までは覚えておらず, 盲点だった受験生もいただろう。H : やや難問。ナポレオン 3 世はサン＝シモンの思想に影響を受け, 産業社会を重視した経済政策を進めた。K : 第二次世界大戦でフランスがドイツに降伏したのち, 第一次世界大戦の英雄であったペタンを首班とする政府が中部フランスのヴィシーに成立し, これにより第三共和政は崩壊した。〔2〕 : ファシズム勢力に対抗するために左派政党が協力して成立したのが人民戦線内閣であり, フランスのブルム人民戦線内閣のほか, スペインのアサーニャ人民戦線内閣が代表的である。	標準

合格のための学習法

立命館大学の入試世界史の大きな特徴は, 基本的に全問記述式であること, また, 中国史に関する大問が頻出であり難度も高いという 2 点である。また, 例年, 難しい漢字用語の記述問題を出題する傾向がある。それゆえ, 中国史などの漢字用語を何度も書いて練習することは, 立命館大学の入試世界史対策では必須といえる。立命館大学に限らず, 記述式の問題が出題される大学入試では, 解答の際に正確な表記を心がけ, 判別しやすい字ではっきりと書くように努めたい。また, 一昨年のように, 文化史関連の設問が大半を占める大問が複数出題されることもあるため, 過去問や資料集などを積極的に活用し, 中国史だけでなくヨーロッパ史についても文化史対策を怠らないようにしたい。